

プリキュアの進化~キラキラ♥こどもの憧れができるまで~

家庭科班: 松本瞳奈、有馬佑月、橋崎哩

1. はじめに

子ども向けのアニメについて調べているときにプリキュアが数年ごとにテーマを変えながら長い間放送され続けていることを知った。そこで、私達はプリキュアが数年ごとに新しいテーマを掲げて放送されていることからその時の時代に沿った内容や描写になっているのではないかと考えた。本研究では、歴代のプリキュアの容姿や変身アイテム、物語の設定などの移り変わりについて調査し、これらが時代背景に沿ったものであるのか、そして時代に沿って形を変えることは視聴者にどのような影響をもたらしているのかを考察した。

2. 実験方法

プリキュアは時代が進むにつれて変化しているのか、また時代が進んでも変化していないことはあるのかを調査するため、私達はプリキュアの作品を実際に視聴したりインターネットで情報を収集することで調査することにした。

《テーマ1 物語の設定、構成について》

- 初代プリキュアから現在のプリキュアのストーリー構成について
- プリキュアの家族構成について
- 悪党組織の構成について
- プリキュアのモチーフについて

この4つの内容について調査をすることにした。

《テーマ2 長い間変化していないことから》

- 登場人物のアイテムについて
- キャラクターについて
- イメージカラーについて

この3つの内容について調査をすることにした。

《テーマ3 ジェンダー視点から見たプリキュア》

プリキュアシリーズで初めてジェンダー問題について取り上げた2018年放送の「Hugっと！プリキュア」について調査をした。

3. 結果

《テーマ1》

- どの年代の物語も妖精がプリキュアになる人材を探して私達の住む世界にやって来ることから始まり、プリキュアの人材に選ばれた学生の周りで起こることをきっかけにプリキュアが誕生していた。そしてプリキュアになった学生は悪党と戦うことで世界を救うという構成だった。
したがって、プリキュアのストーリー構成は長年変化をしていないことがわかる。
- 初代プリキュアから2011年度まで核家族や三世代家族を中心とした家族構成だったが2012年度から現在にかけては徐々に大家族やひとり親家族が登場し始めた。
- 初代プリキュアから2011年度まで上層部と幹部の二部構成を中心とした組織構成だったが2012年度から現在にかけては二部構成にはとどまらずその他の幹部や悪の妖精が追加されたり、悪党組織が2つ存在することも少しずつではあるが増えてきた。
- ダンスや音楽など比較的抽象的なものからプリンセス、魔法使いなどに変化し現在にかけて具体性を帯びてきているように思える。このようにストーリーの基盤ではないキャラクター設定などは変化し続けていることがわかった。

《テーマ2》

- アニメ中の描写の中で、登場人物のアイテムがガラケー型からスマートフォン型になった。
- 2018年放送の「Hugっと！プリキュア」で知能(AI)のキャラクターが登場した。
- 登場人物ひとりひとりに違ったイメージカラーが当てはめられていることは長年変わらないことに気がついた。色が持つイメージについて調べたところ、ピンクからは思いやりがある、優しいなど、黄色からは好奇心旺盛、明るいなど、人々が色から受ける印象は多様であることがわかった。このことから、登場人物ひとりひとりが違ったイメージカラーが当てはめられている理由として、色のイメージから連想される印象をもとに人々の多様性を示しているのではないかと考えた。

《テーマ3》

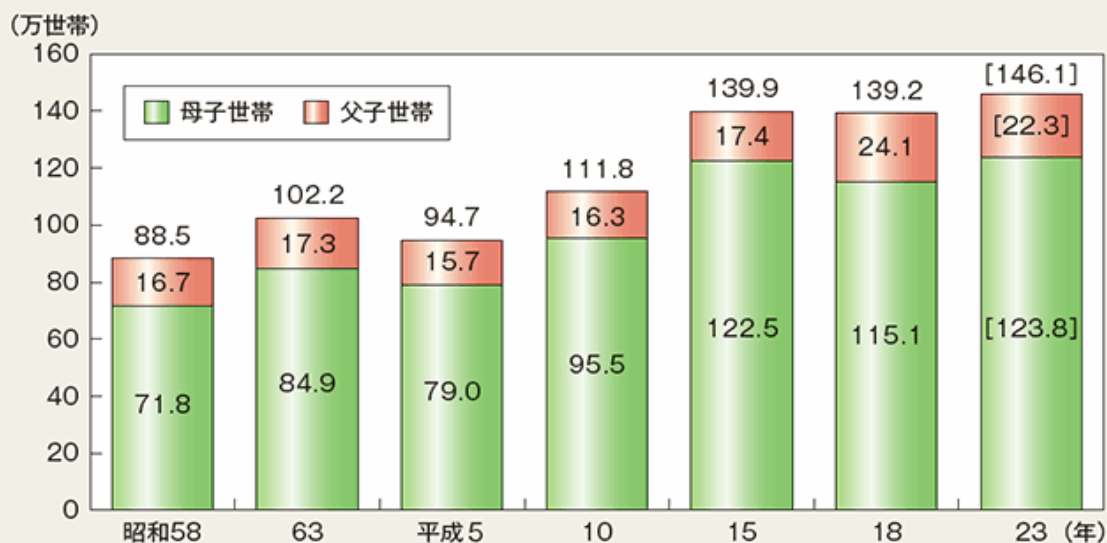
作中で男の子のプリキュアが誕生したことや、「男の子だってお姫様になれる」や「女の子だってヒーローになれる」などといった登場人物たちのやりとりが行われたことは、作品のテーマである「なんでもできる！なんでもなれる！」をよくあらわしており、幼児向けアニメながらもジェンダー問題に踏み込んでいることがわかった。また、このような演出は子どものジェンダー観に大きく影響を与えるのではないかと考えた。

4. 考察

私達は実験からわかった結果の中でも特に時代背景の変化と結びつきが強いと思われるプリキュアの家族構成の変化を取り上げて時代背景との接点を調査することにした。先述の通りプリキュアの家族構成は初代から2011年度までは核家族や三世代家族を中心とした家族構成だったが、2012年度のスマイルプリキュアを始まりとして大家族やひとり親家族のプリキュアが登場し始めた。この変化は現実の時代背景に従って変化したものなのだろうか。

下図(男女共同参画白書より)は片親家庭の世帯数推移を示したグラフである。

I-4-6 図 母子世帯数及び父子世帯数の推移



(備考) 1. 厚生労働省「全国母子世帯等調査」より作成。

2. 各年11月1日現在。

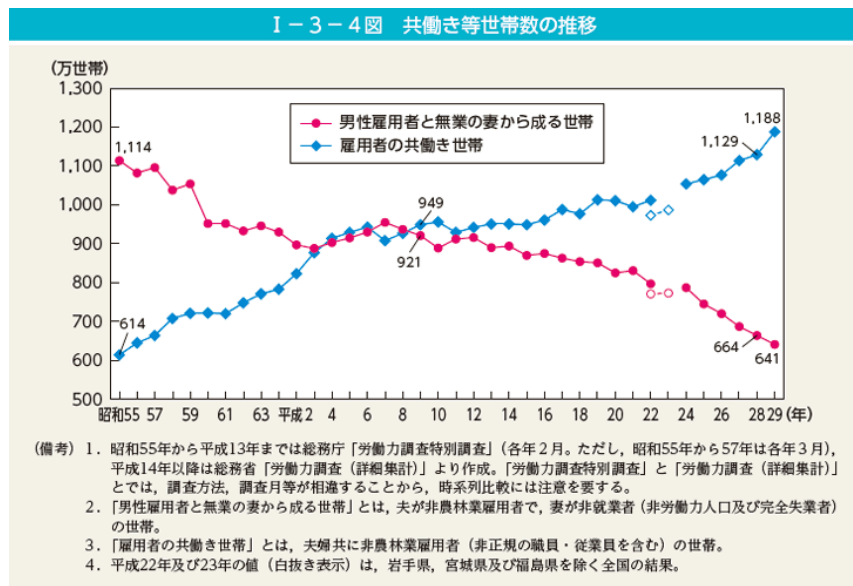
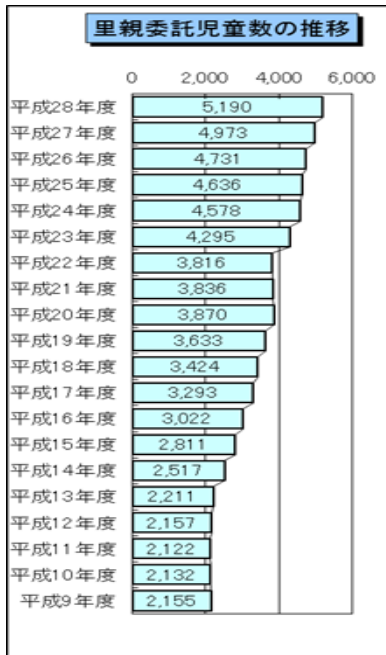
3. 母子(父子)世帯は、父(又は母)のいない児童(満20歳未満の子供であって、未婚のもの)がその母(又は父)によって養育されている世帯。母子又は父子以外の同居者がいる世帯を含む。

4. 平成23年値([])表示は、岩手県、宮城県及び福島県を除く。

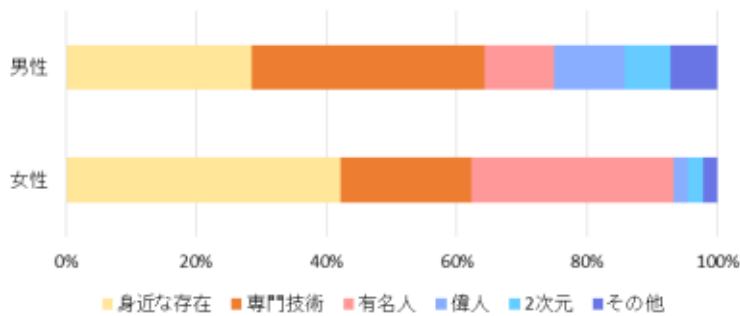
このグラフから母子家庭、父子家庭ともに現在にかけて増加傾向であることがわかる。したがってプリキュアにひとり親家族が登場したきっかけとして日本のひとり親世帯数が増加したことがひとつの理由になったと考えた。

次に、大家族世帯についての日本の世帯数推移を調査しようと様々な文献を調査したが世帯推移のような確証のある資料が見つからなかった。そこで他の家族構成(里親世帯、共働き世帯など)の日本の世帯数推移を調査することにした。

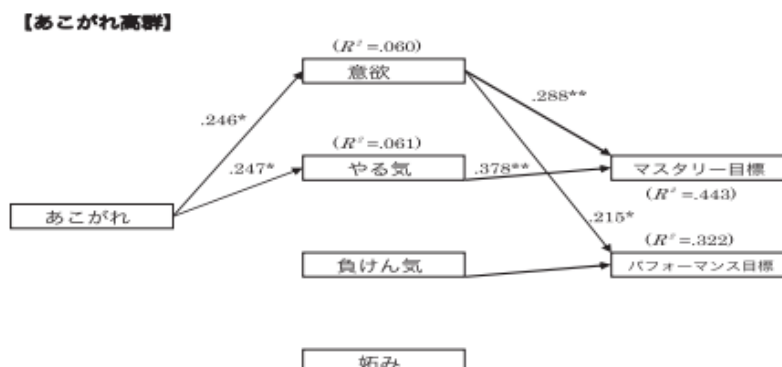
下図は里親世帯(左)、共働き世代(右)の世帯数推移を示したグラフである。



このグラフからも片親世帯と同様に里親世帯、共働き世代共に増加傾向にあることがわかる。以上より、現実世界で様々な家族形態の家庭が増加してきたことからプリキユアにも今までとは異なる家族形態の家庭が登場してきたと考察した。そしてなぜプリキユアは現実社会と共通するような構成を新たに取り入れたのかについては、視聴者の生活に密接に関わっていることを作品に取り入れることで視聴者に親近感をもたせる狙いがあるのではないかと考察した。また、親近感を持たせることでプリキユアを憧れの対象に作り上げているとも考えた。この考えを補足するために憧れの対象はどのような存在に多いのかという先行研究の論文を調査した。(下図 木村由紀子(2018)「憧れと自己肯定感の関係性」より)



プリキユアの視聴者層の約七割を占める女性に焦点を当ててグラフを見てみると女性の四割以上が身近な存在に憧れを抱くことがわかる。更に、憧れはその人にどのような影響を与えるのかについても先行研究の論文を用いて調査した。(下図 青木多寿子,中島恭兵(2011)「児童・生徒の向上心,目標指向性に及ぼす“あこがれ”の影響」より)



この表を見てわかるように、憧れの対象は意欲ややる気を起こさせることができる存在であることがわかる。プリキュアが正義のヒーローであり続けることは視聴者に良い影響をもたらす可能性が高く、視聴者の多くを占めているとされる幼児は思考力や判断力を形成する大切な時期でもあるので健やかな心の成長の手助けを行う役目もあるのではないかと考察した。

5. まとめ・今後の展望

プリキュアの視聴者数を多く占める幼児は思考力や判断力を形成する大切な時期であることから、最近のプリキュアが取り上げるようになったジェンダー問題と同じように、現在世界で問題となっている人種差別や環境問題などを幼児にもわかりやすく取り上げることで幼児の考えに影響を及ぼし、これからの時代はそれらの問題について働きかける人が増えたり問題となる偏見の根源を断つことにつながるだろうと考える。そのようにこれからの時代を担う人々が変化していけばSDGsの課題解決に繋がったり良い方向に社会が向かっていくのではないだろうか。今後の課題としては、今回の研究はプリキュアを取り上げたため男性にはあまり焦点を当てることができなかった。だから、次回の研究では仮面ライダーなどの男性視聴者が多い作品を取り上げて今回の研究と同様に研究をしていきたいと思う。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

木村由紀子(2018)「憧れと自己肯定感の関係性」

青木多寿子,中島恭兵(2011)「児童・生徒の向上心,目標指向性に及ぼす“あこがれ”の影響」

登丸あすか(2018)「子ども向けアニメ番組におけるジェンダー規範の揺らぎ-『HUGっと!プリキュア』の男性像をもとに-」

堀桃恵「『HUGっと!プリキュア』におけるジェンダー表象」

株式会社マーベラス「HUGっと!プリキュア」DVD